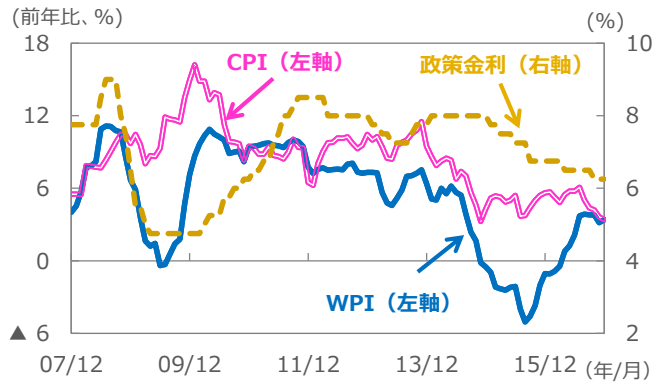


今日のトピック 最近の指標から見るインド経済（2017年1月）
インフレは引き続き低位安定

ポイント1 **CPI上昇率は鈍化傾向**
引き続き食品価格の低下が寄与

- 2016年12月の消費者物価指数（CPI）は前年同月比+3.4%と5カ月連続で鈍化しました。食品のインフレ率が前年同月比+1.4%と、11月の同+2.0%から鈍化したことが主な要因です。
- 一方、卸売物価指数（WPI）は前年同月比+3.4%と11月の同+3.2%を上回りました。燃料・電力関連の上昇（11月同+7.1%⇒12月同+8.7%）が主な要因です。

【消費者物価指数(CPI)と卸売物価指数(WPI)】

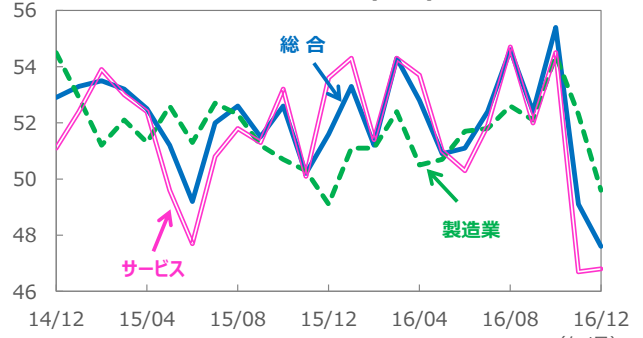


(注) データ期間は、2007年12月から2016年12月。
(出所) CEICのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 **購買担当者指数は低下**
高額紙幣廃止の影響か

- 2016年12月の総合購買担当者指数は、47.6と前月の49.1から更に低下しました。これは、高額紙幣廃止にともなう新紙幣不足による混乱が背景にあると思われます。
- インド準備銀行（中央銀行、RBI）は、3月末までには新紙幣が市中に行きわたると見ていると思われ、経済の混乱は、間もなく落ち着きそうです。

【購買担当者指数(PMI)】



(注) データ期間は、2014年12月から2016年12月。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 **インフレ率は、食品価格低下と内需低迷で低位安定**

- 今後ともCPIは、資源価格の上昇基調などにより上振れる可能性はあるものの、足元、食品価格低下が続くことが見込まれ、比較的落ち着いた推移となりそうです。次回の金融政策委員会（2月8日）で、RBIが更なる利下げを行うのが注目されます。
- 一時的な新紙幣不足による経済の混乱収束後は、引き続き内需主導の景気拡大と、インフレの低位安定が予想されることから、インドの株式、債券、為替は堅調に推移することが期待されます。

ここもチェック! **2017年 1月13日 インドの2016年度GDP見直し**
2016年12月26日 2016年の振り返りと2017年の見直し（インド）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。